



報道関係者各位

平成 24 年 9 月 26 日
青森県立保健大学

日本ヒューマンケア科学会の市民公開講座

「家で看取るために～エンドオブライフ・ケアにおける 保健・医療・福祉の連携～」

I. 内容

日本ヒューマンケア科学会(事務局:青森県立保健大学)は青森県立保健大学で第5回学術集会を開催するにあたり、学会の地域貢献の一環として、「家で看取るために～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携～」をテーマに、無料の市民公開講座を開催します。

今日、多くのガン患者さんや高齢者の方が住み慣れた自宅で、家族に見守られながら、人生の最後を迎えたいと考えています。しかしながら、こうした自宅での看取りはなかなか進んでいないのが現状です。基調講演では、長年医師の立場からエンドオブライフ・ケアにかかわってこられた十和田市立中央病院の蘆野吉和氏、また 2010 年 3 月の NHK 番組「プロフェッショナル仕事の流儀:訪問看護師, 秋山正子」で紹介され、これまで多くのガン患者さんや高齢者の方の在宅での看取りを実現されてこられた秋山正子氏にお話しいただきます。またシンポジウムでは、ご家族やケアマネジャーの立場からこの問題をお話しいただくことで、在宅ケアの輪をこの青森の地でも広げていきたいと願っています。

II. 開催日時・会場

開催日時 : 2012年10月27日(土) 13時00分～16時30分(12:00より受付開始)
会場 : 青森県立保健大学 講堂 (青森県青森市大字浜館間瀬 58-1)
定員 : 450名 入場無料 先着順

III. プログラム

13:00～13:15 挨拶
13:15～14:45 基調講演「エンドオブライフ・ケアの課題」
講師: 蘆野 吉和 氏 (十和田市立中央病院)
講師: 秋山 正子 氏 (ケアーズ白十字訪問看護ステーション)
15:00～16:30 シンポジウム「家で看取るために～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携」
シンポジスト: 千船 哲子 氏(看取りを経験されたご家族)
シンポジスト: 葛西 育子 氏(特養老人ホームおきだて苑ケアマネジャー)

問い合わせ*****

青森県立保健大学 社会福祉学科共同研究室 (B1)

〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1

TEL:017-765-2096 FAX:017-765-2097

担当: 種市

関連 URL : http://www.humancare-s.jp/index_p_5hc.html

家で看取るために

～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携～

日本ヒューマンケア科学会第5回学術集会実行委員会／青森県立保健大学

開催日時 : 2012年10月27日(土) 午後1時00分～午後4時30分

会場 : 青森県立保健大学・講堂 (青森市浜館間瀬 58-1 TEL:017-765-2000【大学代表】)

主催・主管 : 日本ヒューマンケア科学会／日本ヒューマンケア科学会第5回学術集会実行委員会

後援 : 青森県看護協会, 青森県社会福祉士会, 青森県介護福祉士会
青森地域大学間連携協議会(予定)

入場無料 先着 450 人まで(正午より受付開始)

<ご案内>

人を相手とするヒューマンケアの進歩と発展を目的とする日本ヒューマンケア科学会は、毎年学術集会を開催しておりますが、5回目を迎える今年度は、大会開催にあたり、市民向けの公開講座を下記の要領で開催することにいたしました。

今回の公開講座のテーマは「家で看取るために～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携～」です。人生の最後を家族に看取られながら我が家で迎えたいと望むガン患者さんや高齢者の方々はたくさんいらっしゃいます。しかし半世紀前に約8割であった自宅で亡くなる方の割合は、今日ではたったの1割強にすぎません。病院では進行ガンの患者さんが自宅に帰るのは最初から無理だと考えますし、またご家族も諦めてしまいがちです。でも、病院に入っていることが終末期を迎えた方々にとって本当に安心でき、そして望んでいる姿なのでしょうか。人生の最後を住み慣れた自宅で、家族との交流の中で迎えることは、その人らしい尊厳ある死を迎えることにもなりますし、生活の質(QOL)を保つことにもつながります。在宅医療や訪問看護、介護サービスや地域の支え合いなどを上手に使い、今日、自宅に帰って家族に看取られて亡くなることは不可能ではありません。

また今日ほどガンなどの医療情報が溢れている時代はありません。しかしその一方でガンの患者さんは、どの情報が自分に当てはまり、どの情報が自分にとって有益なのか、判断に迷っています。ガンの患者さんにとって現在必要なのは、たくさんの情報ではなく、まさに相談というヒューマンな行為です。在宅で病む方とそのご家族に寄り添い、こうした人々の視線に立った親身な相談が求められています。

公開講座では「エンドオブライフ・ケアの課題」ということで、お2人の方に基調講演をお願いしています。お1人は現在十和田市立中央病院の事業管理者である「蘆野吉和」氏で、長年医師の立場から在宅でのエンドオブライフ・ケアに携わってこられました。医療の立場からその課題についてお話しいただく予定です。

もうお1人は株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーションの統括所長である「秋山正子」氏です。秋山氏については2010年5月のNHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀：訪問看護師，秋山正子」でも紹介され，これまで多くのガン患者さんや高齢者の方の在宅での看取りを実現されてこられました。最近，東京の新宿区に「暮らしの保健室」を開設され，ゆったりとした雰囲気の中で，ガン患者さんとそのご家族の相談や地域の方々に健康や生活にかかわる相談にもものっていられます。テーマについては訪問看護の立場からお話しいただく予定です。

大会テーマで行うシンポジウムでは，このお2人加えて，在宅での看取りを経験されたご家族の方，そして福祉の立場からサービスをコーディネートするケアマネジャーの方からもお話しいただく予定です。シンポジウムでは，在宅でのエンドオブライフ・ケアを進めるために，保健・医療・福祉の専門職は何をしなければならぬかについて話し合っていきたいと思っています。

基調講演とシンポジウムで構成される今回の公開講座は，学会の地域社会への貢献の一環として，青森の県民・市民，学生や地域の方々に無料で公開します。参加くださる皆さま方と一緒にこのテーマについて議論を深め，在宅ケアの輪をこの青森の地でも広げていきたいと思っています。

<プログラム>

2012年10月27日(土)

時間	プログラム
12:00~13:00	受付
13:00~13:15	開会・挨拶 青森県立保健大学 学長 リボウィッツ よし子 氏 第5回学術集会 会長 大和田 猛 氏
13:15~14:45	基調講演 「エンドオブライフ・ケアの課題」 講師：蘆野 吉和 氏（十和田市立中央病院） 講師：秋山 正子 氏（ケアーズ白十字訪問看護ステーション）
14:45~15:00	休憩
15:00~16:30	シンポジウム「家で看取るために～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携～」 シンポジスト：千船 哲子 氏（看取りを経験されたご家族） シンポジスト：葛西 育子 氏（特別養護老人ホームおきだて苑施設ケアマネジャー） 助言者：蘆野 吉和 氏（十和田市立中央病院） 助言者：秋山 正子 氏（ケアーズ白十字訪問看護ステーション） 司会：中村 順子 氏（日本赤十字秋田看護大学）
16:30	閉会

<大会事務局・問合わせ先>

日本ヒューマンケア科学会第5回学術集会実行委員会事務局

住所：〒030-8505 青森市大字浜館字間瀬 58-1 青森県立保健大学社会福祉学科共同研究室

TEL：017-765-2096 FAX：017-765-2097

E-Mail：5th_hcs@ym.auhw.ac.jp（社会福祉学科 種市寛子 宛）

家で看取るために

～エンドオブライフ・ケアにおける保健・医療・福祉の連携～

人生最後を住み慣れた“我が家”で——

私たちの家族、そして私たち自身が望む場所で、安心して尊厳ある死を迎えるためにはどうしたらよいか。在宅死を保健・医療・福祉、そして家族の視点から考えてみたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしています。

日 時： 2012年10月27日(土) 13:00～16:30

会 場： 青森県立保健大学 講堂

入 場 料： 無料(※先着450名、12:00受付開始)

＜プログラム＞

12:00～13:00 受付

13:00～13:15 開会・あいさつ

リボウイツ よし子 氏 青森県立保健大学長
大和田 猛 氏 第5回学術集会長

13:15～14:45 基調講演「エンドオブライフ・ケアの課題」

講師： 蘆野 吉和 氏 (十和田市立中央病院)
秋山 正子 氏 (ケアーズ白十字訪問看護ステーション)

14:45～15:00 休憩

15:00～16:30 シンポジウム「家で看取るために

～エンドオブライフ・ケアにおける保健医療福祉の連携」

シンポジスト： 千船 哲子 氏 (看取りを経験されたご家族)
シンポジスト： 葛西 育子 氏 (特別養護老人ホームおきだて苑施設ケアマネジャー)
助言者： 蘆野 吉和 氏 (十和田市立中央病院)
助言者： 秋山 正子 氏 (ケアーズ白十字訪問看護ステーション)
司 会： 中村 順子 氏 (日本赤十字秋田看護大学)



＜基調講演講師紹介＞

蘆野吉和氏 長年にわたり医師の立場から在宅でのエンドオブライフ・ケアに携わっている方で、20年ほど前から地域で看取るためのネットワークづくりなどの活動をされています。その経験を通して、在宅死に関する医療の課題についてお話いただきます。

秋山正子氏 NHKの「プロフェッショナル～仕事の流儀」でも紹介された、訪問看護活動の草分け的な存在です。現在は東京都新宿区に「暮らしの保健室」を開設して、地域住民のさまざまな健康に関する相談にあたっています。

＜お問い合わせ先＞

日本ヒューマンケア科学学会第5回学術集会 実行委員会事務局(担当 種市)
TEL 017-765-2096 FAX 017-765-2097 E-Mail 5th_hcs@ym.uhw.ac.jp